

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	幼保連携型認定こども園ミナバもくせいのもり
施設所在地	東京都昭島市
法人名	社会福祉法人多摩育児会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

『動植物』

<テーマの設定理由>

当園は緑豊かな東京都の郊外に位置しております。開園し、3年目の幼保連携型認定こども園です。昨年度も園の特色である果樹園での活動と、烏骨鶏や川魚等の生き物の飼育を通して、動植物に興味関心を広げてきました。今年度も園の特色である身近な園環境の中で動植物と出会い、探求する心を育み、深めるため、このテーマの設定としました。

2. 活動スケジュール

年間を通して、園庭（果樹園）で様々な植物に触れたり、観察をしたりする。

年間を通して、活動の中で煮干し擦りを行い、肥料にする。

6月オクラと南瓜の苗植え

8月～9月オクラの収穫、オクラの調理保育

11月小松菜と大根の種まき

1月小松菜と大根の収穫、小松菜と大根の調理保育

夏頃から金魚・ザリガニの飼育

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

肥料作りとして、煮干しを擦る活動を日常的に行えるように準備した。

金魚・ザリガニのエサを準備し、小さい容器に入れ子どもたちができるようにした。

ザリガニが脱皮したときには観察できるように別容器に入れたり、ザリガニに関する紙芝居を見たり、絵カードを準備したりした。

苗や種の購入、ジョウロの準備

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

果樹園で遊ぶ機会が多いので、花が咲いたり実ができたりに際に、名称を伝えたり色や形などを観察したりしていった。

収穫できた野菜は、栄養士に調理してもらい、給食やおやつと一緒に出したり、目の前で焼いてもらい食べたりした。

金魚・ザリガニのエサやりは交代で行い、エサを食べる姿を見ていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

日々の遊びの中で、花が咲いたり実がでけたりと、自然の変化に気が付くと保育者に知らせる姿があり、「こっちにもあるよ」と別のところに咲いている花を見せたりしていた。野菜の苗植えや種まきをした後は、「みずやりたい」と水やりをしたり「はっばがでてきた」と成長を観察したりしていた。「うこっけいもたべるかな？」との声が上がり、園で飼育している烏骨鶏に小松菜をあげる活動につながった。食べる様子を見て「たべたね」と子ども同士での会話も見られた。収穫した野菜は、「どんな味がするかな？」と保育者が聞くと「おいしい」と言って、普段野菜が苦手な子も食べる姿があった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

日々、果樹園で植物に触れていて、果樹やこうぞの木は名称も知っているのも子どもたちに伝えることができるが、自然の植物は知らないものも多いので、図鑑などで一緒に調べることでより探求が深められるようにしていくと良かったと思った。子どもたちが、緑の葉っぱは烏骨鶏が食べられるということを理解し、育てた小松菜をあげたいという発想が生まれた。金魚・ザリガニの飼育は観察・エサやりのみだったので、掃除を取り入れることでより身近に感じられるようになって感じた。